

令和6年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(評価計画)

建学の精神	女性の自律・自主と先度他の心の涵養			
教育目標	白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。			
本年度の重点目標	1 生きる力の育成 4 自己管理の育成	2 第一志望を目指させる指導 5 積極的な情報発信	3 社会生活に適応する力の育成 4 危機管理意識の高揚	
	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み
1 生きる力の育成	ICTを活用した教育環境の整備	(1) 具体的方策 高校生も生徒1人1台タブレット導入に向けて、Google Classroomを活用し、生徒が授業を通してスマートフォンやタブレットを活用した教育活動に取り組める環境を整備する。		
		(2) 具体的指標 生徒が授業中にスマートフォンやタブレットを使用する場面を平均して週に3回以上設けることができた教員が 5割以上 : A 2割以上 : B 2割未満 : C		
1 生きる力の育成	キャリア教育の充実	(1) 具体的方策 総合的な探究の時間で使用する探究プログラム(1・2年: Inspire High、3年: ぼらぶら)を有効に活用し、生徒が自分自身の強みや興味・関心などを把握し、進路選択を考える機会を作る。		
		(2) 具体的指標 探究プログラムの活用により、 7割以上の生徒が進路選択を考えるきっかけとなった : A 5割以上 : B 5割未満 : C		
2 第一志望を目指させる指導	[進学] 進学実績 & 学力の向上	(1) 具体的方策 ①国公立及び中堅以上の私大を総合型や推薦で挑戦させる生徒を増やし、面接・小論文指導をチューター制で実施する。 ②模試では得意教科を伸ばすところに重点を置き、過去問題を活用させる。 ③スタディサプリを実施するにあたり、シラバスを作成し、計画的な課題配信と確認を行ない、受験指導でも活用する。		
		(2) 具体的指標 ①国公立及び中堅以上の私大に10名以上合格させる。(中堅私大とは河合塾全国偏差値47.5以上の大学とする。) ②模試で全国偏差値50以上の生徒を、特進はクラスの50%以上、総進はクラスの10%以上を目標とする。 ③全学年、スタディサプリ到達度テスト正解率60%以上を目標とする。 達成項目3つ : A 達成項目2つ : B 達成項目0または1つ : C		

	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み
2 第一志望を目指させる指導	〔就職〕 「自分で選んで就職先を決めた」と実感できる指導	(1) 具体的方策 ①本校主催で行う5月の企業説明会、同友会主催のオンライン企業説明会、昨年度の求人票の提供など、生徒が企業情報を入手できる機会を増やす。 ②昼休みなどを利用して面談を行い、生徒から志望企業を聞き、その企業の情報を提供する。 ③求人票受付初日からの求人情報を7月5日(金)に提供できるようにする。その後は2日おきに求人情報を提供する。		
		(2) 具体的指標 ①3年生就職内定者に対して、就職に関する情報収集量や就職活動に関する10項目のアンケート調査を行う。 ②アンケートは3年生就職希望者が全員内定したら実施する。ただし、12月末までに全員内定しない場合は、1月上旬に実施する。 <評価区分> 実感できた生徒が100% : A 実感できた生徒が80~99% : B 実感できた生徒が80%未満 : C <実感の判断> ・1項目あたり3つの選択肢をつくり、選択肢により1点~3点を配点する。 ・1人あたりの「実感」の判断 25~30点 : 実感できた 20~24点 : どちらともいえない 20点未満 : 実感できなかった		
3 社会生活に適應する力の育成	「清楚・芳香・忍耐」の理解と実践	(1) 具体的方策 白梅精神に基づく教育目標「清楚・芳香・忍耐」の意味を理解させ、生徒一人ひとりが意欲的に取り組むことができるよう、初期指導やHRで目標を設定させる。		
		(2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表を記入し、振り返りを行う。「よくできた」「おおよそできた」と自己評価する生徒が 7割以上 : A 5割以上7割未満 : B 5割未満 : C		
3 社会生活に適應する力の育成	礼法・学校規則の理解と遵守	(1) 具体的方策 講話をはじめとする礼法・学校の規則・社会ルールについて初期指導やHRを通して理解させ、遵守させる。		
		(2) 具体的指標 講話の聴き方や態度、移動時の行動が7割の生徒にしっかりと身につけており、校内巡視を通しての教室の整理整頓が 8割以上徹底されている : A 6割以上8割未満徹底されている : B 6割未満 : C		

	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み
3 社会生活に 適応する力の 育成	違反行為 問題行動 の防止と 指導	(1) 具体的方策 違反行為や問題行動は1報で情報共有し、 生徒指導課会議において指導方針について協 議し、校長の指示を仰ぎ実施する。		
		(2) 具体的指標 生徒全員が安心・安全な校内生活を送れる ことを目指す。 違反行為や問題行動を未然に防ぐように校 則の確認をHRや長期休業前に必ず行い、規 範意識の向上を目指す。 謹慎以上は10件以内、戒告は20件以内 : A 謹慎以上15件以内、戒告30件以内 : B 謹慎以上16件以上、戒告31件以上 : C		
4 自己管理 の育成	実態に即 した保健 教育の実 施	(1) 具体的方策 健康診断の実施、事後措置等を通して、生 徒及び教職員の健康の保持増進を図り、感染 症の状況等、実態に即した健康教育を実施す る。		
		(2) 具体的指標 健康診断結果を通して健康状態を把握さ せ、保健だよりを通して時期に合わせた情報 を提供し、感染症が流行する前には、注意喚 起を行う。欠席率が全体で 5%未満 : A 5%以上10%未満 : B 10%以上 : C		
	健康相談 の充実と 情報共有	(1) 具体的方策 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行 う。担任等と情報共有、必要に応じスクール カウンセラーとの連絡を密に行い、生徒の学 校生活がよりよいものとなるようにする。		
		(2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表 教育相 談項目にて、教員（スクールカウンセラー 含）に相談できる生徒が 40%以上 : A 10%以上40%未満 : B 10%未満 : C		
5 積極的な 情報発信	HP・SNS の活用	(1) 具体的方策 ホームページ・インスタグラムを通じて積 極的な情報発信に努める。		
		(2) 具体的指標 体験入学時にアンケートを実施し、情報発 信が充実していると感じる方が80%以上を 目標にする。 80%以上 : A 70%以上 : B 70%未満 : C		
6 危機管理 意識の高 揚	体験型防 災訓練の 実施	(1) 具体的方策 各種の体験型防災訓練を実施し、生徒及び 職員の危機管理意識を高める。		
		(2) 具体的指標 防災訓練後にアンケートを実施し、「役に 立った」と感じる生徒・職員が80%以上を 目標にする。 80%以上 : A 70%以上 : B 70%未満 : C		